



京都大学大学院理学研究科生物科学専攻
グローバルCOEプログラム助教

今井薫さん

前人未踏の分野だから知りたい
父の影響を受けた研究者への道

私が研究しているのは、ホヤの遺伝子を手がかりにした「脳の進化」。ホヤは海の生物なのですが、人間と同じ脊索動物に分類されます。脊索動物の中でもっとも原始的なのがホヤで、もっとも高等なのがヒト。ホヤを研究することで、ヒトへの進化の道筋をたどることができるのです。

研究者になろうと思った背景には、私の父が実験物理の研究者だったことが関係しています。実験を行う父の姿を見て育ったので、実験のおもしろさを身近で感じ、自分もそうになりたい、そして生き物が好きだったので大学で発生学を研究したいと思ったのです。ホヤを研究することになった理由は、発生学を学べるのがマウスとホヤを扱う二教室しかなく、ホヤの研究は哺乳類研究のように展開が早くないので、自分のペースで研究ができそうだったからです。

また、ホヤは研究している人があまり多くなく、新しい発見がたくさんできそうな点も魅力的だと思いましたね。

研究室に入った当初は、ホヤそのものについて知ること

から始めました。この研究のおもしろさは、未開拓だからこそ宝探しみたいなところ。人間を何億年もさかのぼればホヤにつながり、その軌跡を追っていくと脳がどのような進化をたどっていったのかわかる気がして……。つまり、ホヤの脳の遺伝子と人間の脳の遺伝子を比べてみて、どの遺伝子がどのように働き、その働きがどのように影響することで、ホヤから魚、鳥、哺乳類へと変化していったのか。このようなことを純粋に「知りたい」という気持ちで追求していくことにやりがいを感じています。

脊椎動物と、脊椎に近い機能を持つ頭索動物や尾索動物の総称



ホヤの遺伝子を用いた分子生物学的実験をしているところ

互いに支え合うことで得られる かけがえのない人生と研究の道

研究者を続けるために 家事も育児も夫婦で協力

夫の職業は、私と同じ研究者です。学生の頃から一緒に、一度大学を離れてアメリカへ行っていたのですが、戻ってくると二人ともまた京都大学で働くことになりました。家事は協力しながらこなしています。三人子どもがおりますが、夫は食事の世話はもちろん、寝かしつけてくれたりなど、いろいろなことを分担してくれるのでとても助かっています。「研究に専念したいので今日は帰らないから。」という日もありますよ。

研究職というのは就業できる期限が決まらねたりすること多いし、あまり募集がある職業ではないので、今の仕事をとても大事にしたい。お互いその思いが強いのではないかと思います。例えば、夫が遠方の仕事に就くことになってしまった場合、専業主婦の方ならついていくこともできると思うのですが、私は今の職場を離れたくないし離れるわけにもいかない。今、私がこの仕事を続けていられるのは同居しているからで、もし夫婦離れ離れに

なってしまうたらとても大変だと思うのです。

また、女性の研究者は子どもを生むくらいまでは続けやすいのですが、異動となった夫についていくことになりやめてしまうことも多いのです。そういう意味では、女性が犠牲を払いがちなという、女性ならではの不安定さはあると思いますね。

出産の際はいずれも産休が半年間ありましたが、その間も論文を書いていましたので、研究から全く遠ざかるということはありませんでした。でも、研究というのはどんどん新しいデータが出てくるので、三年間も離れてしまったらもう戻ってこれないなという気はしますね。最近では女性研究者を支援する助成金制度ができたことで、続けやすい環境が築かれつつあります。私自身も将来に不安を感じることがありますが、そういった制度を利用しながら、今の調子で続けていきたいと思っています。

message

がんは"いあき"に
ゆったりと

今井 薫

